



第2回 感覚・知覚心理シンポジウム

時を経て移り変わる環境意識にどう向き合うか

◆主旨

地球環境問題の進展、国際化や高齢化、情報技術の発達と普及など、時代が大きく変わるなかで、環境に対する意識も変化している。われわれは環境意識の経年変化にどのように向き合い、どのように環境設計に結びつけばよいのだろうか。

プログラムではまず、建築環境工学の音、景観、温熱の各領域から、環境意識の経年変化を扱った研究の例を紹介する。そして総合討論で、環境意識の経年変化を研究する意義や、時間以外の要因の分離、環境設計への応用に関して、領域を超えた議論をおこなう。

なおアンケート調査をとりまく昨今の状況についての講演も予定しており、環境意識調査に興味をもつ初学者に向けて、研究の具体的な展望を与えることを意図している。

◆プログラム

主旨説明	梅宮典子(大阪市立大学)	13:30-13:35
金沢市寺町寺院群における鐘の音の保全と住民意識	土田義郎(金沢工業大学)	13:35-14:00
河川景観評価における経年的変化	西名大作(広島大学)	14:00-14:25
アンケート調査と個人情報	合掌頭(岐阜大学)	14:35-14:50
大阪の集合住宅における冷房使用の意識と実態	梅宮典子(前出)	14:50-15:15
伝統的防暑行為の実施状況の推移	松原斎樹(京都府立大学)	15:15-15:40
総合討論	司会:合掌頭(前出) 指定討論者:秋田剛(東京電機大学)	15:50-17:00

主催—日本建築学会 環境工学委員会 環境心理生理運営委員会 感覚・知覚心理小委員会

日時—2018年7月7日(土) 13時30分~17時00分

会場—大阪市立大学杉本キャンパス 学術情報総合センター1階 文化交流室
(〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138 TEL:06-6605-3211)
http://libweb.media.osaka-cu.ac.jp/?page_id=112

参加費—会員2,000円、会員外3,000円、学生1,000円(資料代含む)

定員—80名(申込先着順、6月30日〆切)

申込方法—参加者氏名、所属、会員種別を明記の上、メールにてお申し込みください。
kankakutikaku@gmail.com (担当:名古屋市立大学 原田昌幸)

問合せ—日本建築学会事務局 事業グループ 中村
TEL:03-3456-2057 E-mail:nakamura*/aij.or.jp /*/を@に変えてください。